

医療被ばく研究情報ネットワーク
第一回全体会議 議事次第

日 時 : 2010年12月6日(月) 午後2時~4時半

場 所 : UDXカンファレンス Room E (東京 秋葉原)

参加予定者 (別添)

議題 :

1. これまでの活動報告
2. 医療被ばくに関する国際動向 (ICRP, IAEA, WHO, UNSCEAR など)
3. 医療被ばくに関する国内動向
4. 組織体制
5. 今後の活動計画
6. その他

配付資料

1. 参加予定者
2. これまでの活動
3. 医療被ばくに関する国際動向
4. 医療被ばくに関する国内動向
5. 医療被ばくに関する研究情報
6. 今後の活動計画
7. その他

参加予定者（一部オブザーバ参加）

- 原子力安全委員会： 事務局 片岡 穰 安全調査官
- 文部科学省： 科学技術学術政策局 井上裕司 放射線安全企画官
- 厚生労働省： 医政局指導課 馬場征一 先生
- 近畿大学： 細野 眞 教授
- 岡山大学： 清 哲朗 先生（元厚労省医政局指導課）
- 長崎大学： 山下俊一 教授（元 WHO）
- 大分県立看護科学大学： 甲斐倫明 教授（ICRP 第 4 委員会委員）
伴 信彦 准教授（UNSCEAR 国内対応委員会委員）
- 国立保健医療科学院： 樺田尚樹 先生・山口一郎 先生
- 元放射線医学総合研究所： 丹羽太貫 先生（ICRP 主委員会委員）
- 日本放射線技師会： 北村善明 常務理事
諸澄邦彦 医療被ばく安全管理委員会委員長
- 日本医学放射線学会： 放射線防護委員会委員 宮寄 治 先生
- 日本放射線技術学会： 防護分科会委員 五十嵐隆元 先生
- 日本核医学会： 放射線防護委員会委員長 本田憲業 先生
- 日本放射線腫瘍学会： 高井良尋 先生
- 日本放射線影響学会： 宮川 清 先生
- 日本小児放射線学会： 宮寄 治 先生
- 日本歯科放射線学会： 防護委員会委員 岩井一男 先生
- 日本医学物理学会： 防護委員会委員 丸橋 晃 先生・唐澤久美子 先生
盛武 敬 先生
- 医療放射線防護連絡協議会： 佐々木康人 会長、菊地 透 総務理事
- 日本画像医療システム工業会： 岩永明男 専務理事
- 放射線医学総合研究所： 米倉義晴 理事長
放射線防護研究センター
酒井一夫・島田義也・米原英典
吉永信治・神田玲子
重粒子医科学センター
神立 進・米内俊祐・藤井啓輔・赤羽恵一
分子イメージング研究センター
栗原千絵子・長谷川純崇

これまでの活動

1. 情報共有

1.1. メーリングリスト

3月30日のキックオフミーティングで各組織・機関内での指定が確認されたコンタクトパーソンを中心に、メーリングリストを作成した (me_network@nirs.go.jp)。WHO や IAEA から届いた情報は、事務局から随時メーリングリストに流しており、メンバーからの情報提供も行われている。現在、コンタクトパーソンから各組織への情報伝達は、コンタクトパーソンの判断に一任されている。

1.2. ホームページ

J-RIME の情報発信媒体として、関係者間のメーリングリストだけでなく、ホームページを作成・運用すべく、検討が重ねられている。ホームページが運用されるサーバは、今のところ放医研内に置くことが検討されている。

2. サブグループ

WHO Global Initiative のリスクアセスメント対応として、小児の医療被ばくに関するサブグループが作られた。メンバーは、国立成育医療研究センターと放医研が中心である。小児の放射線診療に関し、まずは実態把握が必要であることと、その方法論について、関係者間で議論が始められている。

3. その他

3.1. 名称

キックオフミーティングの議論で、「医療被ばく研究情報ネットワーク」の日本語名及び英語表記について、再検討することになっていた。国際的に紹介するためにも早急な決定が求められ、日本語名称は当初の通り「医療被ばく研究情報ネットワーク」とし、英語表記はほぼ直訳された” Japan Network for Research and Information on Medical Exposures” (略称 J-RIME) とした。

医療被ばくに関する国際動向

1. ICRP

1.1. 各委員会の動向

ICRP の動向について、各委員会のメンバーの先生方からご紹介頂きます。

- ・ ICRP 主委員会 : 丹羽先生
- ・ ICRP 第 3 委員会 : 米倉理事長
- ・ ICRP 第 4 委員会 : 甲斐先生
- ・ ICRP 第 5 委員会 : 酒井先生

1.2. 会議

“The first ICRP Symposium on the International System of Radiological Protection” が 2011 年 10 月 24 日～26 日に Washington D.C. の近くで開催される予定である。

2. UNSCEAR

2.1. 会議

UNSCEAR の動向について、UNSCEAR 国内対応委員会の先生方からご紹介頂きます。

- ・ 医療被ばく関連 : 伴先生、他

2.2. REPORT

UNSCEAR 2000 REPORT の改訂版にあたる UNSCEAR 2008 REPORT が公開され、UNSCEAR のウェブからダウンロード可能になっている。放医研を中心に、日本語翻訳作業が進められている。

3. IAEA

3.1. Action Plan

IAEA Action Plan の現状について、近畿大学細野教授からご講演頂きます。

3.2. Smart Card/SmartRadTrack project TM

10 月 18 日～21 日に、第三回の Smart Card/SmartRadTrack project の会合が開催された。

3.3. Justification TM

10 月 4 日～6 日に、画像診断における医療被ばくの正当化に関するテクニカルミーティングが開催された。

4. WHO

4.1. Global Initiative

WHO Global Initiative on Radiation Safety in Healthcare Setting について、
先生方からご紹介頂きます：

- ・長崎大学 山下教授
- ・国立成育医療研究センター 宮寄先生
- ・放医研 米原先生

4.2. 会合

来年4月に横浜で開催される JRC2011 における日本医学放射線学会と日本放射線
技術学会の合同シンポジウムで、WHO GI の担当者である Dr. Maria Perez が 15 分
間の発表をされる予定になっている。また、IRQN の Dr. Lawrence Lau も来日予定
である。

医療被ばくに関する国内動向

1. 放射線診断

関連学会の先生方からご紹介頂きます：

2. 放射線治療

関連学会の先生方からご紹介頂きます：

3. 核医学

関連学会の先生方からご紹介頂きます：

- ・日本核医学会放射線防護委員会委員長 本田憲業 先生

4. その他

医療被ばくに関する研究情報

1. 医療被ばくの研究情報

現在、各分野の学協会、専門家などが有している研究情報を一元化し共有することが求められている。そのため、まずは J-RIME メンバーの情報を調査することから始める（今後の計画参照）。

今後の活動計画

1. 組織

1.1. 形態

キックオフミーティングでは、次の形態を有する組織として議論がなされた：

医療放射線利用における安全適正化を目指すべく、医療被ばく問題に係わる諸機関・組織・専門家が実践的な議論と活動を行うための情報集約としてのハブ的機能を有する組織

- 対象を医療被ばくに限定する
 - メンバー間の協力により、医療被ばく関連の研究情報を収集・共有する
 - 国際機関への対応を協議し、実践する。
 - 必要に応じてサブグループを設ける
-

しかし、組織として曖昧であること、活動経費（会議費等）がなく、参画がしにくい現状である。規程等、組織の在り方についての検討を要する。

1.2. 構成

キックオフミーティング時のメンバーに加え、幾人かの専門家にご賛同いただき、全体会議にご参加いただいた。更に組織ベースで参画を呼びかける予定。

1.3. 活動資金

ゆるやかな組織形態であるため当面会費制はとらず、会議参加等必要な経費は参加者（団体）がそれぞれ負担としている。今後の課題として、組織の在り方の検討に含める。

2. 活動

2.1. ミーティング

- 年 1～2 回程度の全体会議
- 必要に応じて適宜サブグループ会議開催

2.2. 情報交換・収集・蓄積

- メーリングリスト

現在はコンタクトパーソンを中心としたリストメンバー。今後、各学会等の状況に応じて、リストに情報を流したいメンバーを追加する。メーリングリストの名称を、me_network@nirs.go.jp から、j-rime@nirs.go.jp と変更する。

○研究情報データ

放射線診療に関する施設数・装置数・診療頻度・線量・ガイドライン等で、各組織・機関が有している情報を調査する。そのために記入フォーマットを作成、メールにて調査依頼をし、回答を返信していただく。

○ウェブ

ホームページを放医研内のサーバに構築し、公開する。

2.3. 国際対応

○WHO

WHO Global Initiative のリスクアセスメント対応として、現在「小児被ばく評価グループ」が活動中。

JRC2011 の際に、Dr. Perez と Dr. Lau をお招きし、J-RIME メンバー参加のサテライト的なミーティングを開催。

○IAEA

IAEA の医療被ばく関連活動に関し、必要な場合にデータを提供する。

○ICRP

ICRP の医療被ばく関連活動に関し、必要な場合にデータを提供する。

○UNSCEAR

医療被ばく関連データを一元化することにより、各国へのサーベイに協力する。

2.4. 研究活動

情報交換・収集・蓄積により得られたデータを元に、今後必要とされる情報に関する研究グループを組織する（公的研究資金へ応募することを前提）。

IAEA の活動に関し、国内でどのように考えたらよいか検討する研究グループを作る。

3. 活動スケジュール

3.1. 組織

2011 年 3 月まで：ホームページ構築・公開

2011 年 4 月 1 日：新たな規程に基づき活動開始

3.2. 会議

2011 年 4 月〇日：JRC2011 開催前後にサテライト的ミーティング開催

2010 年〇月：活動報告及び次年度活動計画

3.3. 研究情報

2011年〇月 : アンケート調査票を配布

2011年〇月 : データのまとめ

2011年〇月 : ウェブに公開

2011年〇月 : 研究グループを組織・2012年度以降の公的資金に応募

3.4. サブグループ会議

適宜必要に応じて開催

3.5. イベント

2011年〇月 : 医療被ばく研究情報に関するシンポジウム開催（東京）